

神緑会ニュースレター

第5巻 第2号

発行日 2013年8月28日



改修後の研究棟D（旧共同研究館）



神戸市立湊翔楠中学校の屋上より



研究棟D（旧共同研究館と増築部分）



神緑会館前の花壇

目次	ページ
特集 定時社員総会2013 定時社員総会において13理事・3監事を選任	3
新役員ご挨拶 田中 邦彦 大洞 慶郎 中野 康治 大柳 光正 千谷 容子 吉本 祥生	11
行政だより 独立行政法人福祉医療機構の概要と今後の展開	14
西塚泰美記念資料室（シスメックス株式会社）を訪ねて	18
交連骨格として解剖学教育を見守る初代校長 小川瑛五郎先生	20
救命救急科 西山 隆 特命教授 就任祝賀会	22
神戸大学病院外来担当医一覧表	24
京都大学 iPS 細胞研究所（CiRA）便り	26
名簿編集委員会より	28
神戸大学医学部医学科地域特別枠学生交流会「地域わくわく会」	30
神戸神緑会総会開催のお知らせ	36

神戸の贅沢



海から神戸の市街を望む中国レストラン「聚景園」。大切なときを、かけがえのない人と神戸で。



ポートピアホテル Tel.078-302-1111 (代表)

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目10-1
ホームページ <http://www.portopia.co.jp>

特集 定時社員総会2013

定時社員総会において13理事・3監事を選任 ～ 会長に前田を再任 ～

一般社団法人神緑会では、平成25年6月22日に定時社員総会を開催し、一般社団法人へ移行後初めての役員改選（選任）を行いました。

社員総会の冒頭で、恵美裕一郎選挙管理委員長から、役員選挙の告示から候補者の確定に至る経緯について報告があり、理事および監事の候補者数が定款に定める定員以内であったことから、役員選挙細則の規定により総会における議決を行う旨の報告があった。

引き続き第1号議案として、理事候補者13名、監事候補者3名について、有権者に配布されたグリーンカードを使って候補者毎に選任議決（信任投票）を行った結果、候補者全員が賛成多数で選任されました。

また、社員総会終了後に新たに選任された理事・監事によって臨時理事会を開き、前田 盛理事を会長に選任（再任）し、副会長に田中邦彦理事（前常務理事）、大洞慶郎理事（再任）、中野康治理事（新任）の3名を、常務理事に宮本正喜理事（前副会長）をそれぞれ選任しました。

なお、理事・監事の任期は平成25年6月22日から平成27年6月に開催される定時総会終結までとなっています。（定款第32条1項）

新に選任された理事・監事は次ぎのとおりです。



議事進行する恵美選挙管理委員長

役 職	氏 名	卒業年
会長（代表理事）	前田 盛	46
副会長（渉外）	田中 邦彦	42
副会長（財務）	大洞 慶郎	46
副会長（広報）	☆中野 康治	52
常務理事	宮本 正喜	59
理 事	大竹 邦夫	44
理 事	千原 和夫	45
理 事	奥町富久丸	48
理 事	☆大柳 光正	49

役 職	氏 名	卒業年
理 事	藤盛 孝博	49
理 事	山崎 峰夫	56
理 事	☆千谷 容子	61
理 事	三浦 靖史	01

監 事	永井 公尚	37
監 事	☆吉本 祥生	39
監 事	山中 弘光	43

（☆印は初めての選出）

定時社員総会（詳細資料は、学術誌掲載）

一般社団法人神緑会 平成25年度定時社員総会が、平成25年6月22日（土）に神戸大学医学部会館シスメックホールで開催され、午後3時5分に定刻より5分遅れて前田 盛会長が議長席に着きました。

前田会長から、総会開催に向けて多くの方々からご協力をいただいたことに対して謝辞があり、続いて、定款に定める総会開催の定足数を満たしていることを報告して開会を宣言しました。

会長あいさつ

選挙管理委員会のご努力により、役員選挙がスムーズに終了したことに感謝致します。以前の役員選挙は、選挙権が理事と評議員にのみ制限されていましたが、一般社団法人に移行したことに伴い定款を変更し、社員全員が役員投票権と立候補権を等しく持つことになりました。定款の変更により、今後益々、神緑会活動が活性化されることを期待しております。

又、各支部の評議員の方々には、総会開催のためのチケットの販売にご協力いただき、有り難うございました。

まず、活動方針について説明致します。クラス代表評議員を2名に増員し、クラス同窓会の開催や会員住所の把握に努めることにしました。

次いで、財政基盤の強化に努めました。大洞副会長を中心に収入増を図り、前年度より350万円の増収が出来ました。昨年10月の昭和62年卒業の山中伸弥 京都大学 iPS 細胞研究所長のノーベル賞受賞の快挙が追い風であったにしても、会員の皆様方のご協力に対し感謝に耐えません。

これを機会に、神緑会館の陳列棚を整備しました。明治2年の神戸病院、神戸医学校（明治15年から21年）の神田知二郎学校長・病院長と学籍簿、平 清盛の異母弟、平 頼盛の別邸、医学部付属病院発掘調査資料等です。この後の懇親会は、神緑会館で行いますのでご覧になって下さい。

なお、平成以降の卒業生の大学離れに対してニコニコ会活動を始めました。卒業後2年の平成23年卒、卒業後5年目の平成20年卒の同窓会開催を後押ししました。会員、学生の支援に努めますのでよろしくお願い致します。本日の総会審議、講演二題、懇親会と長丁場ですのでご協力よろしく申し上げます。

平成24年度決算報告

大洞慶郎副会長から、総会資料の「貸借対照表」、「正味財産増減計算書」、「財務諸表に対する注記」に基づいて説明が行われた後、永井公尚監事が「監査報告書」に基づき、当法人の業務、財産および損益の状況等について監査を実施した結果、法令および定款に従い適正に処理しているとの報告が行われ、ついで、議長が承認を求めたところ、満場異議なく承認可決されました。



挨拶する前田会長と執行部



監査報告する永井監事

平成24年度事業報告等

田中邦彦常務理事から、当法人の「平成24年度事業報告書」に基づいて報告が行われました。

また、大洞副会長から、当法人の公益目的支出計画実施報告書の提出について、資料に基づいて報告が行われました。

つづいて、山崎峰夫副会長から、広報委員会報告がありました。

◆ 同窓会神緑会

名簿編集委員会報告

大竹邦夫名簿編集委員会委員長から、本年11月に同窓会神緑会の会員名簿発行に関する進捗状況等について報告がありました。



委員会報告する大竹委員長

田中千賀子学術奨励賞に佐古田洋子氏（54年卒）



田中千賀子
学術奨励賞盾



喜びを語る佐古田洋子先生

平成25年度の田中千賀子学術奨励賞に、兵庫県立加古川医療センター乳腺外科部長の佐古田洋子氏（54年卒）が選ばれ、6月22日の定時社員総会において記念盾の贈呈式が行われました。

授賞対象となった研究課題は「乳癌診療の質の向上に向けたフィールドワーク研究：チーム医療体制の構築ならびに市民対象啓発活動」です。

選考を行った一般社団法人神緑会学術委員会では、「乳癌に関する臨床と研究を一貫して行い、患者さんからの評価も高く、田中賞受賞にふさわしい研究である」と評価し、全員一致で選考しました。

平成26年度 一般社団法人神緑会 田中千賀子学術奨励賞の募集について

田中千賀子教授退官記念事業会から、本会女性会員で医学研究の進歩に寄与する顕著な業績を残した者に対して、奨励賞を授与するため「神緑会女性研究者奨励賞基金」が寄せられました。

これを有効に活用するため、下記要領で募集を行います。

記

一般社団法人神緑会は定款第2章（目的及び事業）第7条第3号に基づき、以下の規定に従い平成26年度助成事業として募集いたしますので奮ってご応募下さい。

- ☆ 応募者は、所定の申請用紙に必要事項を記入し、業績論文を添えて提出して下さい。
- ☆ 申請用紙は一般社団法人神緑会ホームページ又は事務局にて入手して下さい。
- ☆ 応募の締め切りは、平成26年3月31日とします。

平成25年度 研究助成金授与者決定

平成25年度一般社団法人神緑会研究助成金の授与者が決定し、6月22日の定時社員総会において助成金目録の贈呈式が行われました。

受賞者は次のとおりです。

募集対象1 (医学の教育・研究及び学術交流に対する助成)

(円)

番号	氏名(卒年)所属等	研究課題等	助成額
1	藤岡 一路(平成16年卒) 兵庫県立こども病院 周産期医療センター新生児科	一絨毛膜二羊膜性双胎における出生時血清NT-pro BNP濃度と心不全発症との関連性に関する研究	300,000
2	川真田 伸(平成2年卒) 公益財団法人 先端医療振興財団	iPS細胞由来自己複製能を有する前駆細胞(Endodermal, Mesodermal, progenitor cell: EP/MP)の作成と分化誘導法の開発	500,000
3	永野 達也(平成15年卒) 神戸大学大学院医学研究科 内科学講座呼吸器内科学分野	非小細胞肺癌に対するペメトレキゼドとアムルピシンの併用療法の薬理薬効解析	400,000
4	田根 慎也(平成18年卒) 神戸大学大学院医学研究科 外科学講座呼吸器外科学分野	肺腺癌におけるSPARCの役割について	300,000
5	河野 誠司(昭和61年卒) 神戸大学医学部附属病院 総合臨床教育センター	教育カリキュラム改変に資することを目標とした学生による医学部臨床教育の問題点解析	300,000
6	青井 貴之(平成10年卒) 神戸大学大学院医学研究科 内科系講座 iPS細胞応用医学分野	iPS細胞作製技術を応用した癌幹細胞特性獲得機構の解明	600,000

募集対象2 (海外における学会発表に対する助成)

(円)

番号	氏名(卒年)所属等	事業名等	助成額
1	藤岡 一路(平成16年卒) 兵庫県立こども病院周産期医療センター 新生児科	学会発表(9th Congress of Asian Society for Paediatric Research conjunction with 20th Congress of the Perinatal Society of Malaysia) 会場: kuching, Sarawak, Malaysia (H.25.5.11)	100,000

募集対象3 (小規模な学術講演会等開催に対する助成)

(円)

番号	氏名(卒年)所属等	事業名等	助成額
1	前川 信博(昭和50年卒) 神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 麻酔科学分野	日本小児麻酔学会第19回大会 実施場所: 神戸国際会議場 (H.25.9.28~28)	250,000
2	味木 徹夫(昭和63年卒) 神戸大学大学院医学研究科 地域社会医学・健康科学講座 地域医療ネットワーク学	神戸大学医学部医学科と関連病院を連結する地域医療学教育講演会 実施場所: 神戸大学医学部 (年1回)	200,000
3	青井 貴之(平成10年卒) 神戸大学大学院医学研究科内科系講座 iPS細胞応用医学分野	iPS細胞の医学応用に関する学術講演会 実施場所: 神戸大学医学部又は京都大学 iPS細胞研究所 (年1回又は3回)	200,000
4	河野 淳(平成14年卒) 神戸大学医学部附属病院 放射線科	若手医師を中心とした3D画像診断推進事業 実施場所: 神戸市、東京など (年1回)	175,000
5	山村 博平(昭和42年卒) 兵庫県立健康生活科学研究所	神緑会会員、準会員へのPhysician Scientist及び予防医学者育成のための講演会 実施場所: 神戸大学医学部多目的ホール、シスメックホール (年6回)	175,000

※ 助成番号1は、平成24年度決定済み。



目録を授与される受賞者



川真田 伸 先生 (2年卒)



永野達也 先生 (15年卒)



田根慎也 先生 (18年卒)



味木徹夫 先生 (昭和63年卒)



青井貴之 先生 (10年卒)



河野 淳 先生 (14年卒)



藤岡一路 先生 (16年卒)

田中賞受賞記念講演

総会后、休憩をはさんで4時50分から学術講演会が行われました。

最初に、昨年度の田中賞受賞者で、兵庫県立がんセンター呼吸器内科部長の里内美弥子 先生から「胸部悪性腫瘍（肺癌を中心に）の診断と治療」と題して講演が行われました。

里内 美弥子（さとうち みやこ）先生



講演中の里内先生

略 歴

平成元年3月 神戸大学医学部卒
 平成元年4月 神戸大学第一内科入局
 平成元年6月 三菱神戸病院 内科研修医
 平成4年6月 神戸大学医学部附属病院第一内科医員
 平成7年4月 兵庫県立成人病センター（現兵庫県立がんセンター）呼吸器内科
 医長
 平成14年5月 神戸大学医学部附属病院 呼吸器内科 助手
 平成17年3月 兵庫県立がんセンター 呼吸器内科 医長（科長）
 平成21年4月 兵庫県立がんセンター 呼吸器内科 部長（科長）

JCOG (Japan Clinical Oncology Group)、WJOG (West Japan Oncology Group) など多施設共臨床試験や各種企業治験に参加

肺癌学会ではガイドライン検討委員会薬物療法及び集学的治療小委員会委員として肺癌を中心とした胸部悪性腫瘍の診断・治療のエビデンス作りに参画

講演の要旨

肺癌は癌死亡原因の第一位を独走し続けており、最も難治な癌の一つとされています。私が兵庫がんセンターに赴き肺癌診療に携わるようになった1995年に、プラチナ併用化学療法を行うと Best supportive care と比較して有意に生存が伸びることが報告されましたが、その差はわずかに6週間であり、入院を必要とし副作用も強い治療を行うことの是非が取りざたされておりました。

しかし、1990年代後半に相次いで発売された新規抗がん剤の導入や、支持療法の進歩により、その予後や QOL は少しずつ改善しました。

今世紀に入ってからからはトランスレーショナルリサーチの進歩に伴い、肺癌における Driver oncogene の探索とそれに基づく分子標的薬の開発が行われ、そのスピードは昨今非常に速くなっている感があります。肺癌も個別化治療の時代に入ってきており、今まででは想像できなかったような劇的な治療効果も得られるようになってきました。今回の講演では1990年代半ば以降の肺癌治療の進展を、私の関わった研究も交えながら振り返るとともに、大きく変貌しつつある治療の現状と展望についてお話しする予定です。

つづいて、神戸大学医学研究科内科系講座 iPS 細胞応用医学分野特命教授の青井貴之先生から「iPS 細胞研究の現状と臨床応用～神戸大学でのスタートを期して～」と題して講演が行われました。



座長を務める長野徹先生（元年卒）



質疑応答

学術講演

「iPS 細胞研究の現状と臨床応用—神戸大学でのスタートを期して」

青井 貴之 (あおい たかし) 先生



講演中の青井先生 (10年卒)

略 歴

平成10年3月 神戸大学医学部卒業
 平成16年4月 京都大学大学院医学研究科博士課程(内科系消化器科学分野)入学
 平成20年5月 同上修了 学位取得(医学博士)
 平成10年4月 天理よろづ相談所病院(ジュニアレジデント)勤務
 平成12年4月 聖路加国際病院 内科(臨床研究員)勤務
 平成14年4月 日本赤十字社和歌山医療センター 消化器科 勤務
 平成19年4月 日本学術振興会特別研究員
 平成21年4月 京都大学 物質—細胞統合システム拠点 iPS 細胞研究センター特定拠点助教
 平成21年11月 京都大学 物質—細胞統合システム拠点 iPS 細胞研究センター共通基盤施設部門 教授
 平成22年4月 京都大学 iPS 細胞研究所 規制科学部門 教授
 平成25年4月 神戸大学大学院 医学研究科内科系講座 iPS 細胞応用医学分野 特命教授

講演の要旨

iPS 細胞樹立の生物学上の意義は、古代から連なる生命科学史上に位置づけられるものであり、その重要性についてはノーベル賞をはじめとする数多くの受賞からも分かる通り、すでに歴史的評価が確定したものであることは言うまでもありません。

一方で、この iPS 細胞という新たに強力なツールを手にした我々が、それをを用いて如何に医学を発展させることができるかについては、これからの取り組み如何にかかっているものと考えられます。

創薬や病態研究、再生医療への iPS 細胞応用が期待される、と言われて数年が経過しました。

関連する研究や規制上の動向などについて紹介し、新しい知見やトピックスにも触れながら、これから神戸大学で展開したいと考えている iPS 細胞応用医学の進むべき方向性について議論させていただきたいと思っております。

編集委員会から

京都大学から神戸大学への移動は電撃的でした。山中伸弥は神戸大学の卒業とは知れわたっていたが、神戸大学で iPS 研究の少ない事も問題でした。詳細は不明ながら、山中所長の肝入りでの移動であり、臨床応用の伸展を神緑会及び関係者が一体となって支援したい。



座長の吉田優先生 (4年卒)



質疑応答

懇親会

総会終了後、神緑会館多目的ホールにおいて懇親会を開催いたしました。

前田新会長挨拶

定時総会がほぼ予定通り進行しました。大変有り難うございました。ご講演の田中賞の里内先生、ご講演の青井先生、有り難うございました。選挙管理委員会はもとより、ご協力いただきました皆様に感謝致します。さて、先日、6月17日に昭和19年の医学専門学校の発足時の学校長の小川 嵯五郎氏のご子息で本学昭和34年卒の小川晶三先生（ハワイ在住）、と嵯武郎氏（東京在住）が本学及び解剖学教室を訪問されました。山鳥元医学部長・解剖学教授と現解剖学の寺島教授が応対されました。嵯五郎氏の骨格標本が解剖学実習用標本として残っているそうです。

この後の懇親会が盛会であることを願います。なお、5月16日に医学研究科長・医学部長に就任されました片岡 徹 先生が、昨日来訪され、本日は他の会と重なって神緑会に出席出来ないとのことでした。そこで、副研究科長の的崎教授、神戸大昭和56年卒にご挨拶と乾杯の発声をお願いいたします。



的崎 尚
副医学研究科長（56年卒）



田中千賀子先生と千原和夫理事



大柳光正 新理事（49年卒）



中野康治 新理事（52年卒）



千谷容子 新理事（61年卒）



懇親会風景



吉本祥生 新監事（39年卒）



足立秀治 県立がんセンター院長（52年卒）



幸地芳朗
県立光風病院院長（52年卒）



荘田 静 顧問（33年卒）

新役員ご挨拶

副会長就任のご挨拶

田中邦彦 (昭和42年卒)

今回、副会長を拝命しました田中です。渉外担当（総会など、会の運営など）です。宜しくお願い致します。

ここ数年、総会への参加者が少なく特に平成卒の会員をみかけなくなり将来に不安を感じています。また、学内会員の参加者も少なくなりました。以前は、懇親会では多く参加され、かなり賑わっていましたが最近ではほとんどお見かけしません。

H.25、7.20臨時理事会・評議員会にて片岡徹医学研究科長・医学部長、中村俊一医学科長との意見交換が行われました。ミッションの再定義として、グローバルな視点で活躍できる医師及び医学研究者の養成を積極的に推進する。生体膜や細胞伝達情報機能に関する研究の実績を活かし先端的で特色ある研究を推進する。また次代を担う研究者を育成する。ASEAN 諸国等と連携・協議し、医学に関する地球規模課題の解決を通して国際貢献する。

兵庫県と連携し、県の地域医療再生に貢献する。兵庫県における地域医療の中核的役割を担うとともに、先進医療、特に低侵襲医療の研究開発を推進する。以上簡単に書きました。

神戸大学医学部はどうするべきか。先端的な研究か、研究者の育成か。地域医療の中核的存在であることを自覚し、兵庫県の地域医療再生を指導するか。困難な選択を迫られています。総会での意見交換が必要ではないでしょうか。

副会長の再任を受けて

大洞慶郎 (昭和46年卒)

6月22日の神緑会総会で理事就任のご承認をいただき、その後経理担当副会長に就任いたしました。

2年前から経理担当副会長をしていますが、最初は右も左も分からず（特に会費徴収制度）、事務局の綾木さんに種々ご教示をいただきました。

一般社団法人への移行時に、1億円の基金を9年程度で取り崩して最終的に0円にする必要がある

のですが、それが無くなってからの社団の安定運営を考えますと、今のままでは資金不足に陥ると思われました。そこで、会長・理事・評議員の方々と相談し、会費の納入率のアップや必要経費の削減に取り組む事といたしました。

ノーベル賞受賞者を輩出した名誉ある一般社団法人神緑会のために、より一層の努力をしていきたいと思っておりますので、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

副会長就任のご挨拶

中野康治 (昭和52年卒)

今回神緑会副会長に就任させて頂きました、昭和52年卒の中野康治（なかのやすはる）です。神戸神緑会会長及び神緑会評議員議長の経験を生かし、責務を尽くしたいと思います。大学卒業後、勤務医を経て昭和63年に須磨・板宿で泌尿器科クリニックを開業し、その後透析室の増設、グループホームを開設し25年となりました。神緑会に対しては勤務医時代や開業直後は開業医のベテランの先生方の集まりとの印象が強かったのですが、須磨支部での活動を通じて身近な存在となってきました。支部活動は同窓の開業医の親睦会的色彩が強いのですが、社団法人神緑会の本来の事業は現役学生と勤務医への勉学・研究への援助が主体であり、広報活動（神緑会会報誌・ニュースレター）も多くは学生と勤務医の先生方への物となっています。又実際の予算もほとんどが学生の白衣式や留学のサポート、勤務医の研究に対する助成となっています。更に法人の理事は勤務医が大部分を占め、私が開業医の意見を代表して発言しなければならないような状態です。今後の社団法人神緑会の活動には、勤務医の先生方の益々の参加が重要だと思われまます。勤務医の皆様のご協力をお願いいたします。

最後に山中伸弥先生のノーベル賞受賞は我々同窓の誇りであり、第二の山中伸弥のような研究者や地域医療に貢献する臨床医を作る様に、後輩達の成長に少しでも役に立てる様に、前田会長をアシストして行きたいと存じます。

理事就任のご挨拶

兵庫医科大学 内科学冠疾患科

大柳 光 正 (昭和49年卒)

この度、神緑会理事に選出していただき、有り難うございました。

昭和49年卒業後は兵庫医科大学第一内科から循環器内科（名称変更）を経て内科再編による内科学冠疾患科に勤務しております。兵庫医大第一内科は神戸大学医学部第一内科からの依藤先生が初代教授で、助教授は岩崎先生（昭和56年から2代めの教授）でした。医局員は神緑会会員が大多数で、神緑会の先生方に診療や研究をご指導していただきました。特に昭和61年と62-64年に神緑会研究助成費を頂きましたことをなつかしく思い出します。また平成16年内科学冠疾患科に残ることができましたのは、兵庫医大のみならず神緑会の先生方のご支援のおかげと感謝しています。また色々な会合でも神緑会会員の先生方にお世話になっております。

振り返りますと、兵庫医大支部長時代には、神緑会に対して、貢献できていませんでしたが、今回神緑会の理事に推挙されました機会に、これまでのご厚意に少しでも報いることができますように、神緑会の発展のためにがんばりたいと心を新たにしております。今後とも、ご指導のほどよろしく願いいたします。

新任理事として

千 谷 容 子 (昭和61年卒)

この度、久しぶりに母校に帰って参りました。これまで育てて来て下さった大勢の先生方、選挙で支持して下さいました会場の先生方、本当にありがとうございます。昔の古い研究室がいつのまにか立派な新築に変わり、新しい建物が増築されていて、長い時間が立った事を思い知らされ感無量です。山中伸弥教授も本当によかったです。心からお祝い申し上げます。二児の母で島津製作所研修経験者である私に課せられた任務は、次世代の山中教授の育成と女性問題、婦人科医育成サポートと多岐にわたります。紅一点ではありますが、皆さんが与えて下さったこの機会を決して無駄に過ごすことがない

よう精一杯の事をいたします。女性医師の活躍支援に連携しますので、女性医師や学生の方も気軽にご相談下さい。また主人が産婦人科出身ですので、婦人科とも協力して活動いたします。もちろん神戸大学全体のために尽力する所存ですので、宜しく願い申し上げます。

監事に就任して

吉 本 祥 生 (昭和39年卒)

この度の神緑会総会にて、監事に選出されましたことを大変光栄に思っています。昭和33年に入学以来、学生生活・研究・教育・部活動等神戸大学（医学部・全学）での思い出は山積しています。

専門課程での遠藤中節学長はじめ、名物教授（須田 勇、岡本彰佑、岡本道雄、溝口史郎、松本 博、堀田 進、友松達彌、辻 省三、植林和之、柏木大治、黒丸正四郎、平田美穂先生方）の講義は今だに脳裏に鮮明に残っています。各先生方には、テニス部・ドイツ語研究部・写真部・音楽鑑賞・囲碁・ゴルフ等卒業後にご指導を頂きました。

卒業後の進路は何の迷いも無く、尊敬の念で一杯だった辻省三教授主宰の第2内科を選んだ。その後一貫して、内分泌学を中心とした分野での臨床・研究・教育に携わっています。

同窓会の活動として、学年の5年毎の集会また神緑会の学年代表評議員として、特に昭和40年代に積極的に関与してきました。その後は海外留学が長期であったり、国立病院の院長を務めていたこともあり、活動は低迷しておりましたが、医学部創立60周年記念のころから、少し積極的に関与したいという思いが湧き出てきました。

残念ながら、神戸大学全学の同窓会や他大学の医学部同窓会活動と比較して物足らなさを感じてきました。昨年12月神戸大学医学部卒業生の山中伸弥教授が栄えあるノーベル医学生理学賞を受賞され、同窓一同の歓喜これ以上のものではありません。我々先輩は、この名誉に驕ることなく、後進の皆さん方の躍進の力添えに役立つことが使命と考えています。同窓会の一役員として、今後一層の活動をして行きたいと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。

医師会会員先生方の安心をお手伝いします

- 保険料の安くなる生命保険団体扱 ■掛金の安い第1グループ保険(最高6000万円加入可)
- 従業員も加入できる第2グループ保険(最高1500万円加入可) ■あいおいニッセイ同和損保代理店
- 兵庫県医師会関連団体費用引去制度(先生の手数料負担はなし)

★詳しくは、ホームページをご覧ください。
<http://www.hyogo-ishikyoo.or.jp>

昭和30年創立



兵庫県医師協同組合

〒651-0086

神戸市中央区磯上通3丁目2番17号

兵医信本店ビル5階

TEL:078-271-1010

FAX:078-271-1039

Hyogoken Iryou Credit Union (HICU)

兵庫県医療信用組合

兵庫の医療・医薬に関わる皆さまと共に歩む専門金融機関です

" 特別金利キャンペーン "

キャンペーン期間：平成26年3月末まで

	介護・福祉 事業ローン	事業性ローン	住宅ローン	オートローン
(1) 特別金利	年1.350%	年1.000%	年1.550%	
(2) 標準金利	年1.550%	年1.100%	年1.650%	
(1) - (2)	▲0.200%	▲0.100%	▲0.100%	

NEW!

平成25年6月より

『介護・福祉事業ローン』

の取扱いを開始しました

- ◇ お使いみち : 介護・福祉事業に係る全ての資金
- ◇ ご融資限度額 : 3億円
- ◇ ご融資期間 : 25年以内



(平成25年7月1日 現在)

◎その他の商品についても取扱いを行っておりますので、詳しくは各営業店の融資担当者までご相談ください。

- ※1 本商品は変動金利型の商品です。
- ※2 金融情勢等により、内容の変更または取扱いを中止する場合がございます。
- ※3 お借入に際しましては原則、社保または国保の振込指定が必要です。
- ※4 審査の結果によってはご希望に添えない場合がございますので、あらかじめご了承願います。

本店営業部 〒651-0086 神戸市中央区磯上通3-2-17
 Tel: 078-241-5201

姫路支店 〒670-0937 姫路市元塩町121
 Tel: 079-282-0177

尼崎支店 〒661-0012 尼崎市南塚口町4-4-8
 Tel: 06-6426-6288

西宮支店 〒662-0911 西宮市池田町13-2
 Tel: 0798-36-1010

行政だより

独立行政法人福祉医療機構の概要と今後の展開

独立行政法人福祉医療機構 審議役

山本光昭(昭和59年卒)

1. はじめに

私は、現在、社会福祉施設や医療施設の整備など、我が国の福祉と医療のインフラ整備の支援を担う独立行政法人福祉医療機構におりますので、その概要と今後の展開について紹介させていただきます。

2. 福祉医療機構の概要

独立行政法人福祉医療機構は、福祉の増進と医療の普及向上を目的として設立された独立行政法人です。当機構は、平成15年10月に独立行政法人としてスタートしており、現在、平成25年度を初年度とする5カ年の「第3期中期計画」期間に入っており、本年10月に創立10周年を迎えます。

福祉医療機構は経営理念として、図1に示す「民間活動応援宣言」を掲げ、お客様サービスの向上のためお客様目線と健全性を確保しつつ、地域の福祉と医療の基盤づくりを推進しているところです。具体的には、今後も新たな成長が期待される福祉・医療分野におきまして政策融資金融機関としての役割を担い、社会福祉施設や医療施設に対する融資

(福祉貸付・医療貸付)をはじめ、これら施設の経営支援、社会福祉施設で働く方々の退職手当共済、心身に障害のある方々の扶養保険、NPO等民間団体への助成、年金を受け取られている方々への融資(年金担保貸付)、福祉保健医療情報の提供など10事業を一体的に実施することにより、地域における福祉と医療の基盤づくりに貢献しています。また、平成23年3月に発生した東日本大震災により被災された地域の社会福祉施設や医療施設等への復旧・復興に向けた支援を行っています。

3. 事業の紹介

①福祉貸付事業

特別養護老人ホームや保育所、障害をお持ちの方を支援する施設などの社会福祉施設を整備する際に必要となる建築資金や設備備品整備資金、土地取得資金等を長期・固定・低利で融資しています。また、社会福祉施設の耐震化整備や都市部における整備を推進するための融資条件の優遇、東日本大震災にかかる被災地の復興のための資金等、様々なニーズに対応する融資メニューを提供しています。当機構の融資の特色としては、長期・固定・低利の融資に加え、福祉分野における長年の実績、および全国データに基づく専門的なアドバイスを行っている点にあります。

②医療貸付事業

病院や診療所、介護老人保健施設などの建物整備や医療機器を購入するための資金、施設運営のための運転資金を長期・固定・低利で融資しています。また、病院の耐震化整備を行う場合の融資条件の優遇、制度改正などを原因とする突発的な資金不足に対応するための運転資金の融資など、変化するニーズにマッチした



図1 経営理念「民間活動応援宣言」

融資メニューを提供しています。当機構の融資の特色としては、長期・固定・低利の融資に加え、医療分野における長年の実績、および全国データに基づく専門的なアドバイスを行っている点にあります。

③経営支援事業

私たちが安心して生活するためには、社会福祉施設や医療施設が地域の中で役割を果たし、安定して経営されることが重要です。そのため、当機構では、経営診断やセミナーの開催を通して福祉医療施設の安定経営を支援しています。融資を通じて得た豊富なデータを活用し、経営基盤を強化していただくためのノウハウを施設経営に携わる皆様に提供し、政策に沿った経営方針の立案、施設サービスの更なる向上、経営状況の把握や他施設との比較など、様々な場面で利用していただいています。当機構の経営支援の特色としては、最新の政策動向や実践事例を紹介する経営セミナーの開催、お客様の個々の経営状況を踏まえた客観的・公平な視点で経営診断を行っている点にあります。また、融資を通じて得た豊富なデータを分析して、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム、保育所、病院、介護老人保健施設の5類型に関する「経営分析参考指標」を冊子にして毎年発行しています。

④社会福祉振興助成事業

NPO やボランティア団体などによる民間の創意工夫ある活動や地域に密着したきめ細かな活動を、助成金でお手伝いすることで、高齢者・障害者が自立した生活を送れるよう、また、子供たちが健やかに安心して成長できるような必要な支援を行っています。さらに、東日本大震災の経験、課題等を踏まえ、災害時の福祉支援ネットワークの構築を目的とした「災害福祉広域支援事業」への助成も行っています。当機構の助成事業の特色としては、児童虐待や貧困問題などの重要な福祉課題に取り組んでいるNPO等への重点的な応援、複数の団体が連携やネットワーク化によって実施する事業への応援、活動に有効な情報提供や助言などの支援を行っている点にあります。

⑤退職手当共済事業

当機構の実施している「退職手当共済事業」は、

「社会福祉施設職員等退職手当共済法」に基づき、社会福祉法人等が経営する保育所や特別養護老人ホーム、障害をお持ちの方を支援する施設などの社会福祉施設を退職された方への退職金制度を運用しているもので、職員の処遇向上、施設における良質な職員の確保および福祉サービスの向上に貢献しています。当機構の退職手当共済事業の特色としては、社会福祉法人の90%以上が利用しており、退職金の財源は契約者（社会福祉法人等）、国、都道府県の3者による負担で職員個人の負担は無い賦課方式により運営している点にあります。

⑥心身障害者扶養保険事業

地方公共団体（都道府県・指定都市）が条例に基づき実施している「心身障害者扶養共済制度」は、障害のある方を扶養している保護者の方々の連帯と相互扶助の精神を基調として生まれた制度で、毎月一定の掛金を納めることにより、保護者が万一お亡くなりになられた場合などに、障害のある方に対して終身一定額の年金を支給する任意加入の制度で、当機構の「心身障害者扶養保険事業」は、この制度を当機構が保険している事業です。本事業の特色は、地方公共団体の制度を支えている事業という点であり、全国的な規模の事業として運営することにより、制度を安定的、効率的に実施できている点にあります。

⑦WAMNET 事業

福祉・保健・医療の総合情報提供サイト「WAMNET（ワムネット）」は、福祉医療に係る制度・施策、その取り組み状況や支援体制などについて、福祉医療関係者や一般の方に向けてわかりやすく広く提供することで福祉と医療の活動を支援しています。具体的には、「行政情報」として厚生労働省等のホームページに掲載されている会議資料等をリンクにて案内、「各種事業者情報」として全国の介護・障害福祉サービス事業者情報をリンクにて案内、「東日本大震災情報」として被災地支援を行っている団体の活動内容等を集約して提供、「評価情報」として社会福祉施設、介護保険地域密着型施設の評価情報の案内などを情報提供しています。

⑧年金担保貸付事業及び労災年金担保貸付事業

当機構の実施している「公的年金担保貸付制度」は、「厚生年金保険法」、「国民年金法」、「労働者災害補償保険法」、「独立行政法人福祉医療機構法」に基づき、厚生年金保険、国民年金、労働者災害補償保険の年金を担保とする唯一認められている公的融資制度です。これらの年金を受給されている方々が、保健医療、介護・福祉、住宅改修、冠婚葬祭などの支出のために、一時的に小口の資金が必要な場合に利用できるものとなっています。

⑨承継年金住宅融資等債権管理回収事業

旧年金福祉事業団等が年金の財源を基に住宅取得などのために融資した債権の管理と回収を行っています。これにより回収された資金は、年金財政に納付され、将来の年金給付の財源となっています。承継した債権管理回収事業には、年金住宅貸付資金の債権管理回収、福祉施設設置整備資金貸付（社宅・療養施設・厚生施設・分譲住宅等）の債権管理回収、年金担保貸付の債権管理回収（平成13年3月までに旧年金福祉事業団で貸付を実行したもの）があります。

4. 福祉貸付・医療貸付事業の特徴と利点

当機構の福祉貸付・医療貸付事業の特徴は、図2に示すとおり、「小回りのきく福祉・医療支援の専門店」として、福祉医療を取り巻く環境の変化に合

わせ、現場のニーズに沿ったきめの細かいサービスを提供している点にあります。契約額は図3に示すとおり、平成22年度から平成24年度まで3期連続で3,000億円超の契約額で推移するとともに、貸付残高は図4に示すとおり平成24年度末で3兆2,400億円となっています。

当機構の融資は、基本は社会福祉施設や医療施設の事業が着実に回る（＝返済ができる）ことが、着眼点となっています。すなわち、当機構の発想は、融資先が、地域福祉・地域医療を確保し、向上させていくことに、最大の関心をもっており、融資相談・申請の際に、詳細かつ実現可能な事業計画等の提出を求めます。一部の融資先からは、膨大な資料の作成・提出に不満のお声をいただいておりますが、この資料づくりや当機構との相談などを通じて、事務部長をはじめとする経営管理担当職員のトレーニングとして活用しているという発想の経営者もいらっしゃるようです。また、同種同規模の社会福祉施設や医療施設の全国データを有していることから、自法人の強み、あるいは課題点を確認することが出来る利点もありますし、当機構の融資が認められると、その信頼性から、民間金融機関の融資も受けやすくなると言われてしています。

5. むすびに

今後の当機構の課題としては、「福祉医療機構」という名称の知名度の低いことに関して、広報機能



図2 福祉医療機構の政策金融としての役割

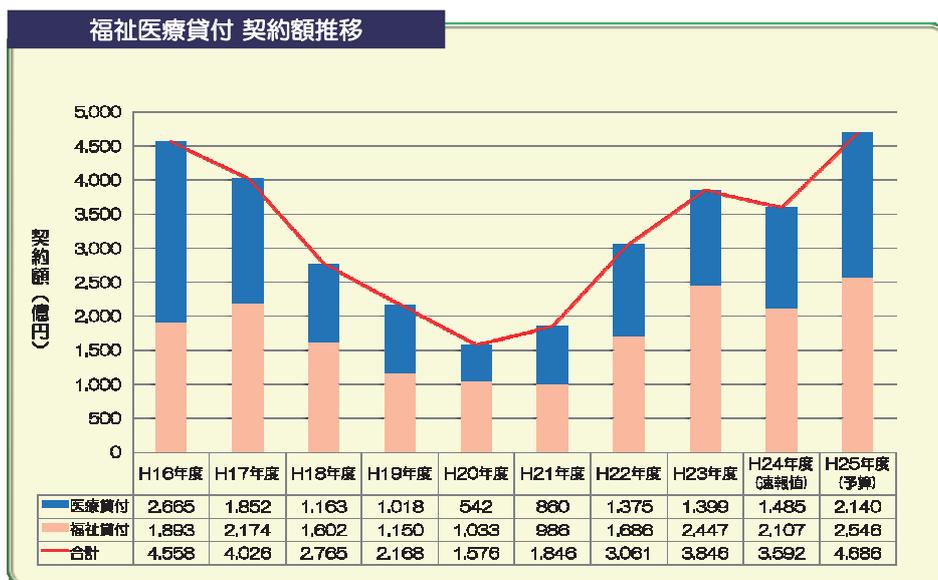


図3 福祉医療貸付の契約額推移

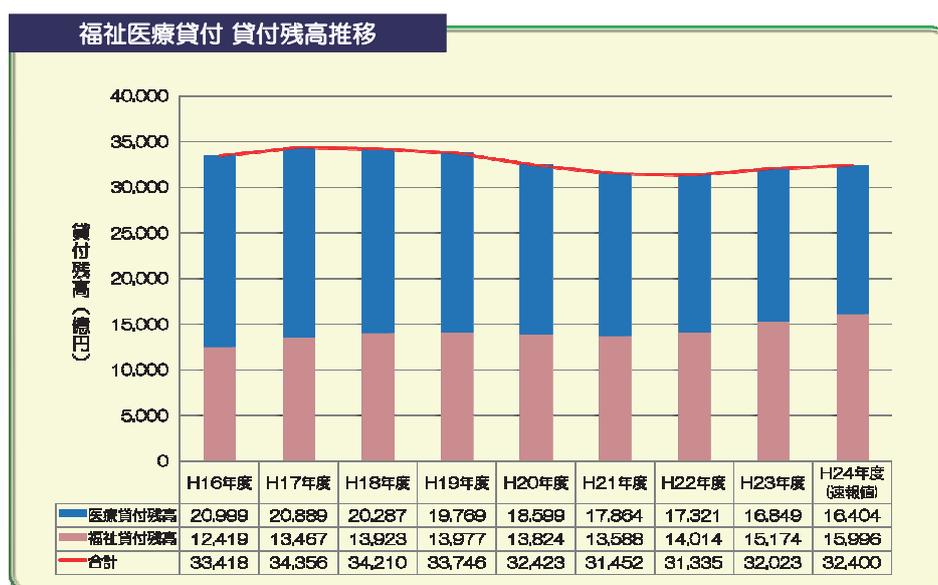


図4 福祉医療貸付の貸付残高推移

を強化して、知名度を上げていくことを目指すとともに、民業補完というスタンスで、民間金融機関に対する福祉医療分野の融資に関するノウハウの提供、協調融資を目指しています。

国民の皆様にとって身近で信頼できる組織となるよう、お客様目線を大切に自己改革に取り組むとともに、「小回りのきく福祉・医療支援の専門店」として、私としても、微力ながら、一層努力していく所存でありますので、神緑会会員の皆様の一層の

当機構に対するご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

編集委員会から

行政よりは例年、神緑会学術誌に掲載していましたが、カラー印刷の利点もあり、ニュースレターに分散して載せます（前田光哉、永田充生各先生分は11月）。

西塚泰美記念資料室（シスメックス株式会社）を訪ねて

山 村 博 平 (昭和42年卒)

西塚泰美先生は、2001年2月に神戸大学学長を退かれた後、同年4月に成人病センター総長を勤められるとともに同年9月にシスメックス株式会社中央研究所（神戸市西区）の名誉顧問に就任された。そして、2004年11月4日、突然にお亡くなりになるまで同研究所に毎週通われて、特に若手の研究員らには大いに薫陶を与えたと聞く。

その後、先生の学術的資料は同社に預けられ、「西塚泰美記念資料室」において研究開発に携わる社員の教育・研修に活用されてきた。

このたび、さらに改装されたという同室を訪問したので、ここに紹介したい。

新たな「西塚泰美記念資料室」は、同社テクノパーク内のセントラルオフィス一角にある。名誉顧問室を復元した形をとりつつも、受賞関連品の展示室と教育・研修のためのスペースが備えられている。

足を踏み入ると右手には、西塚先生の略歴が展

示されている。先生が関わられた書籍が並ぶ様子は、かつての研究室を思い起こさせるものだ。左手のパネル『西塚泰美博士の足跡』は、「細胞内シグナリングの研究と継承」と題された同社での講演を基に、その研究史を追ったもので、2011年の癌学会総会でも展示された（吉川潮（神戸大学バイオシグナル研究センター教授）監修）。

モニターでは、スライド作成がお得意であった自作のブルースライドを用いた先生の講演を視聴することができる。

2004年9月、神緑会館での大学院学生を対象とした講義が、結果的に先生の最終講義となってしまったのだが、亡くなられて1年後に、関係者が会してその音声と画像とを視聴した。それがきっかけとなって編集されたのが、DVD集『西塚泰美博士講演記録』（吉川・山村編集、2009年同社発行、非売品）である。このDVD集作成に関してはシスメックス社の多大なる貢献のお蔭であり、ありがたく感謝し



図1. 正面入り口から見た室内。奥に往時の名誉顧問室を復元している。



図2. 左側壁：西塚先生の足跡を掲示



図3. 右側壁：各種受賞関連の品々を展示

ている。他にも遺されたビデオテープから3件、計4件の講演を収めた。神戸大学附属図書館の蔵書ともなっているので、ご覧いただきたい。

さらに、Nature や Science の論文の手書きの生原稿を手にとり眺めることができる。展示されているのは、1980年代に世界で最も多く引用された論文の原稿などである。鉛筆で書かれた講演原稿には赤ペンの書き込みが残る。上記の最終講義の原稿にも、先生の印象的な言葉の数々を確かめることができる。展示品以外にも自筆原稿などが数多く残されており、現在も整理が進行中ということである。

一方、ガラス張りの右手の展示室には受賞関連の品々が並んでいる。文化勲章、ラスカー賞、京都賞、ウォルフ賞などのメダルやトロフィー、賞状などを間近に目にする事ができた。

室内奥のかつての名誉顧問室を復元したスペースには、先生の肖像写真が掲げられ、机や応接セットが配置されている。大切に保管していた「寄せ書き」の額も掛けられていた。これは、日本学士院賞受賞記念の講演会の際、英国の Micheal Berridge 博士から贈られたもので、PKC シグナルカスケードに研究者らのサインが寄せられたものである。

同社は、先生の言葉を講演原稿や式辞などから集め、日めくりカレンダー『西塚泰美先生のことば』を作成した。社員の教育研修を目的としているということだ。表紙には先生の写真とともに「あなた最近何しとるんや」という言葉が見える。先生は今もなお、研究員らに刺激を与え続けているようである。

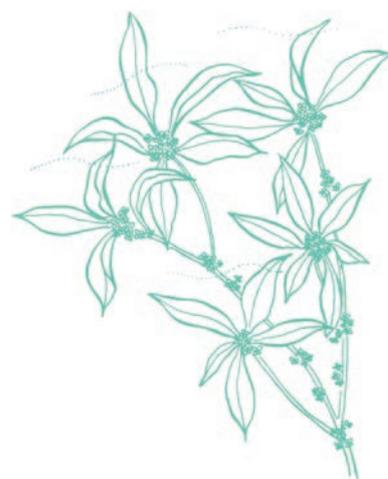
この資料室は一般には非公開となっているが、見

学を希望する場合は、山村博平（42年卒）、中村俊一（57年卒）*まで連絡をいただければ、紹介も可能であることを申し添えたい。資料・取材に協力して下さったシスメックス中央研究所副部長吉田智一氏並びにスタッフの方々に感謝します。

参考

1. 山村博平「西塚泰美先生との出会い そして別れ」、『神戸大学医学部 神緑会学術誌』21, 55-57 (2005)
2. DVD 集の「はじめに」吉川潮・山村博平 筆 (2009)

* 連絡先 山村博平 kinougenomu@yahoo.co.jp
中村俊一 snakamur@kobe-u.ac.jp



交連骨格として解剖学教育を見守る 初代校長 小川瑛五郎先生

神経発生学分野（旧解剖学第1）教授 寺島俊雄（特別会員）

平成25（2013）年6月17日、兵庫県立医学専門学校の初代校長小川瑛五郎（おがわさごろう）先生の次男である小川晶三（おがわしょうぞう）氏と三男である小川瑛生郎（おがわさぶろう）氏が故小川瑛五郎先生の60回忌の法要を兼ねて来校し、解剖学実習室に交連骨格として供覧されている小川先生のご遺骨と霊安室にて対面し、線香を手向けて回向された。その後、基礎学舎構内の「献体之碑」に献花され（写真1参照）、引き続き神緑会会長である前田盛名誉教授により神緑会館にて小川瑛五郎先生に関する展示や書籍の説明を受けた（写真2）。なおご遺族の小川晶三氏は、昭和34年に神戸医大を卒業され、現在は米国ハワイ州ホノルルにて内科医として活躍されている。

小川瑛五郎先生（1876-1951）（写真3参照）は東京帝大を卒業後、内科を専門として、長崎医専教授、京都医専教授、京都府立医大学長を歴任し、神戸病院院長を経て、昭和19（1944）年1月に認可された兵庫県立医学専門学校の初代の校長に就任した。小川先生は、昭和26（1951）年5月30日に逝去されたが（享年75歳）、死後も医学教育に尽すことを望み、兵庫県立医科大学（当時）に献体された。ご遺体は1年にわたる曝骨処理後、交連骨格として

組みたてられて、以来、60年余にわたり解剖学実習室にて骨格標本として供覧され、現在でも医学科の解剖学教育に用いられている。神戸大学医学部に学んだ学生は、解剖学実習室の木製ケースの中に交連骨格があることを多少なりとも記憶していることだろう。その交連骨格が、初代校長の小川先生に他ならない。

交連骨格とは骨の中に針金を通し、全体として繋げた骨標本のことである。今も昔も個々の骨が分離した骨標本（分離骨標本という）で骨学を学ぶことから解剖学教育がスタートするが、バラバラになった手根骨や足根骨をそれぞれ単一の骨として学ぶことは余り意味がない。むしろ手くび全体あるいは足くび全体として手根骨や足根骨を学ぶことの方がよほど重要である。いつの時代の医学生も分離した手根骨や足根骨から苦労してこれを組み立てるのであるが、これが存外に難しいことは神緑会の会員諸氏であればご記憶のことであろう。骨学実習が始まると分離骨標本を手にした学生が交連骨格の周囲に自然と集まるのであるが、その理由は交連骨格を照覧しながら分離骨標本を組み立てるのが最も容易であるからである。

交連骨格にしろ分離骨標本にしろ、骨標本を作成



写真1 献体之碑の前にて（左より小川瑛生郎氏、小川晶三氏、山島崇名誉教授）



写真2 ご遺族に故小川瑛五郎先生の業績を説明する前田盛神緑会会長

する方法を、晒し骨法という。この方法は要するに筋肉、靭帯、骨膜、関節軟骨などを骨から除去する作業であるが、晒し骨にするためには多大な労力と時間を要するのである。近年ではご遺骨は遺族に返却することを原則としているため手元には残らない。骨標本を輸出していたインドも、インディラ・ガンジー首相が輸出を差し止めて以来、人骨の輸出は禁じられたままとされている。したがって今後は交連骨格や分解骨標本を作成したり、購入する機会はほとんどなく、それゆえ現有の骨標本は解剖学の教育上、極めて貴重であることはまちがいない。もちろん、現在でも人骨を購入する手段はあるが、それが死体解剖保存法や献体法に照らして合法的か否かとなると、私は非合法と思っている。

古い遺体原簿の小川瑳五郎先生の記載のあるページを読むと、昭和26年5月30日に死亡された小川先生のご遺骨は、その後、曝骨処理され、交連標本としてケースに入れてこれを保存し、1年後の昭和27年5月30日午後2時から5時に学部長室に安置の上、一周忌の法要が行われたとある。爾来、61年の長きにわたり、初代校長のご遺骨は、交連骨格として学生に慈愛のまなごしを注いでいたことになる。今回、ご遺族の晶三氏、瑳生郎氏に当時の思い出を伺ったところ、附属病院に入院中の小川先

生は、臨終の直前まで道路を挟んで海側の基礎校舎に常に顔を向け、医学教育の将来に想いを馳せていたとのことである。医学校の創業者が、学生教育を目的として、自身の体を骨格標本として遺した例を私は知らない。小川先生のような教育者を初代校長として仰ぐことができたことが、神戸大学医学部の現在の発展に繋がったといえないだろうか。

ご遺族が訪れた6月17日は梅雨の中休みの良く晴れたとても暑い日であったが、ご遺族のすがすがしい印象のみ残る爽やかな日であった。故小川瑳五郎先生が立派な方であったことは間違いないが、このように故人の遺志を尊重されるご遺族もまた立派である。このような方々に支えられて解剖学教育が成立していることを忘れてはならないだろう。

最後であるが、今回のご遺族の訪問にあたって、前田盛神緑会会長には並々ならぬ配慮を頂戴した。ことに大冊の「神戸大学医学部五十年史（平成六年刊）」を会長よりご遺族に献呈していただいたが、後日、ご遺族より感謝のお手紙を頂戴した。今後ともご遺族と医学部ならびに神緑会の間に長く交流が続くことを祈念して、筆を置くことにする。

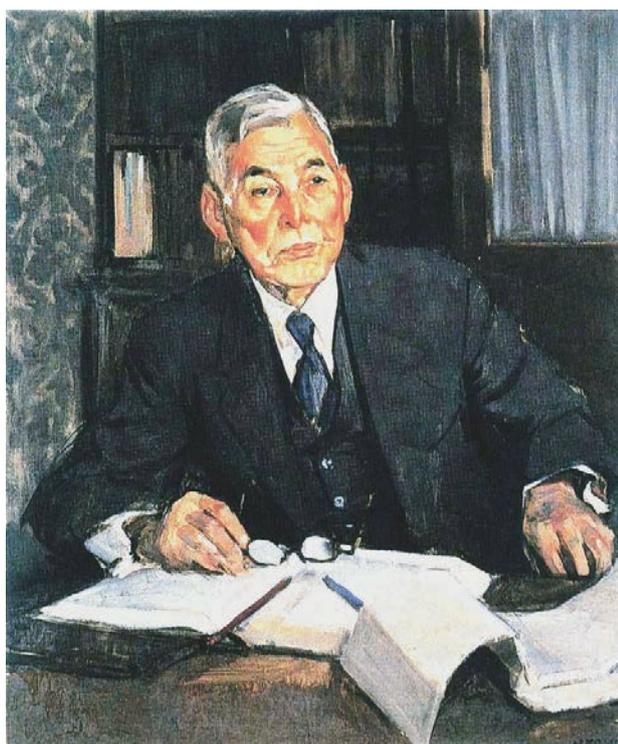


写真3 初代校長 小川瑳五郎先生肖像画（小磯良平画）
（神戸大学医学部五十年史より引用）



救命救急科 西山 隆 特命教授 就任祝賀会

救急部 岡田直己(平成7年卒)

このたび神戸大学医学部附属病院救急部特命教授に就任された西山隆特命教授の就任祝賀会が、さる6月29日にANAクラウンプラザで行われました。神緑会前田盛会長や杉村和朗神戸大学病院長をはじめ神緑会会員の皆様、他施設の救急医療関係者、西山教授の前任地である愛媛大学や香川大学の関連施設等から多数ご臨席いただき、あらためて西山教授の幅広い人脈と、西山教授にかかる期待の大きさを実感しました。

冒頭、発起人である神戸赤十字病院院長小澤修一先生と、乾杯の音頭をとっていただいた兵庫県災害医療センター長中山伸一先生から、1988年に神戸大学医学部附属病院救急部創設時からの歴史を語っていただきました。1994年12月に故石井昇先生が救急部長就任後、阪神淡路大震災を経て、1997年4月に災害・救急医学講座初代教授に就任されました。石井先生は2012年1月に退官され、今回西山先生が第2代の教授就任となりました。

さらに西山先生の恩師である愛媛大学教授相引眞幸先生、香川大学名誉教授小栗頭二先生、愛媛大学名誉教授白川洋一先生からご祝辞をいただきましたが、粘り強く面倒見がいいお人柄を様々なエピソード

とともにご披露くださいました。

神戸市消防局の嶋秀穂局長は消防と大学病院の今後の更なる連携の重要性をお話しされました。そして前田盛神緑会会長からは神戸大学医学部の特色をご説明いただきました。

今回教授交代に伴い一部新聞にも報道されたように、医局員が減少し新規救急患者の受け入れを制限せざるを得ない状況になりました。神緑会の皆様には大変ご迷惑とご心配をおかけしましたが、7月1日には愛媛大学から大坪里織特定助教が就任され、医局員が西山教授以下6名となり、7月22日から救急部として診療再開の運びとなっています。

8月には総合内科から山田克己特命准教授が就任予定であり、僅かずつではありますが陣容を拡充しつつあります。これはひとえに杉村和朗病院長や神緑会の先生方をはじめとして神戸大学病院内外の関係者の皆様による多大なるご尽力の賜物でありまして、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

ただ常勤スタッフ数は以前に比して未だ半減している状態であり、諸先生方には暫くご迷惑をおか





西山教授ご夫妻を前に祝辞を述べる前田会長



感謝の言葉を述べる西山教授夫妻

けすることと存じますが、何卒ご理解とご協力を併せてお願い申し上げる次第です。

祝賀会では今後の救急部の方向性に関するご質問も多数賜りました。

西山教授は、神戸大学医学部附属病院救急部の特命教授であります。大学院医学系研究科外科系講座災害・救急医学分野の分野長も兼任されており、これまで通り救急医学と災害医学の両面を積極的に担ってきた当講座の歴史を継承発展していく抱

負を語っています。具体的には、まずは医局員の人数を充実させ、そして災害救急医学の臨床教育と今後研究にも対応できる医師の育成に励み、地域医療にも貢献できるよう配慮していきたいとの考えです。

教室員もそのために一同で力を合わせていく所存でありますので、皆様方からのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

事務局からのお願い

喜びは一人占めせずに仲間で分かち合いましょう。
嬉しいお話を耳にしたら、事務局に耳打ちしてください。

哀しみは一人で背負わずに仲間で背負い合いましょう。
哀しいお話に接したら、事務局にもお知らせください。

一般社団法人神緑会では、会員の慶事には皆様と共にお祝いを申し上げたいと考えております。また、弔事等には、神緑会としてささやかながらもお悔やみやお見舞いを申し上げたいと考えております。ただ、残念なことにその情報が十分に収集できずに、後手後手に廻っているのが現状です。ご本人はもとより、お友達や関係者の方々からの情報提供をお願い申し上げます。

連絡先；神緑会事務局 Tel 078-361-0616 Fax 078-361-0617

メール sinryoku@med.kobe-u.ac.jp

同窓会 神緑会・名簿編集委員会

神戸大学病院外来担当医一覧表 (No.1)

平成25年7月1日現在
神戸大学医学部附属病院医事課
神戸市中央区楠町7丁目5番2号
代表 TEL : 078-382-5111 FAX : 5285
http://www.hosp.kobe-u.ac.jp

文字が小さく読みにくいですが、次回より4ページになるように工夫します。

Table with columns: 領域名, 診療科等, 区分, 月, 火, 水, 木, 金. Rows include various medical departments like 循環器内科, 腎臓内科, 呼吸器内科, etc.

赤字は、変更点

神戸大学病院外来担当医一覧表 (No.2)

平成25年7月1日現在

Table with columns for Department (診療科等), District (区分), Day (日), and Doctor (担当医). Rows include various medical specialties like Internal Medicine, Surgery, Pediatrics, etc.

(記号の意味) 医師名については要予約外来、【】は職名、()は担当疾患または記載の疾患を診療するための外来、[]は補足説明の意。
(記載について) 医師名から記載されていない場合は、専門外来です。
職名は准教授以上の教員に限り記載しています。【教授】は医学研究科教授、【准教授】は医学研究科准教授、【保・教授】は保健学教授、【保・准教授】は保健学准教授、【保管・教授】は保健管理センター教授の意。

京都大学 iPS 細胞研究所(CiRA)便り

国際広報室 渡邊文隆

平素より神緑会の皆様からは弊研究所への多大なご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。前回の CiRA 便りでは、5年以内に日本人の30~50%をカバーする iPS 細胞株をストックすることを目的とした「iPS 細胞ストック・プロジェクト」についてご紹介いたしました。

一方、上記のような取り組みも、iPS 細胞にかかわる倫理的・法的・社会的な課題を解決しないかぎり、スムーズな実用化は望めないと言えます。そこで今号では、2013年4月に開設された「上廣倫理研究部門」の概要と、7月26日に開催した倫理シンポジウムについてご紹介いたします。

●上廣倫理研究部門設置の背景

iPS 細胞（人工多能性幹細胞）を用いた臨床応用が本格的に始まろうとしている状況を考えると、iPS 細胞研究に関する社会の問題意識を把握し、人々が抱く様々な疑問に応える必要があると CiRA では考えています。そこで、社会のニーズを把握し、iPS 細胞を用いた再生医療に関わる倫理的な課題への解決策を提案し、国内外に発信することを目的として、「上廣倫理研究部門」が設置されました。

2012年に、倫理研究の支援などを行う上廣倫理財団で山中所長が講演を行い、それが契機となって、CiRA に同財団による寄附研究部門を設置することになりました。現時点で、1年間に5,000万円、5年間の支援が決まっています。

●研究部門のメンバー

新研究部門の部門長には藤田みさお准教授が就任し、八代嘉美准教授と鈴木美香研究員と共に研究活動を進めます。そして、秘書の桑原絵美さんが研究活動をサポートします。

藤田部門長は、「日本発の iPS 細胞技術の臨床応



上廣倫理研究部門のメンバー。左から鈴木研究員、藤田准教授、八代准教授、秘書の桑原さん

用に向けて、関連する倫理的・法的・社会的課題（Ethical Legal Social Issues: ELSI）を研究し、成果を国際的に発信していくことは、日本の研究者に課された責務だと考えています」と、研究推進への決意を述べています。

● iPS 細胞について、どんな倫理的課題があるのか？

ES 細胞（胚性幹細胞）については胚を使用するという点で、当初から倫理的な課題が指摘されていましたが、iPS 細胞はその課題を解決できると言われていました。そのため、「iPS 細胞の倫理的な課題」といっても少しなじみが薄いかもしれません。iPS 細胞に関しては、遺伝情報の管理が課題の一つです。前回の CiRA 便りでご紹介した、高品質の iPS 細胞を作製・備蓄する再生医療用 iPS 細胞ストック構築では、健康な方（ドナー）から提供された体細胞から iPS 細胞を作製します。その iPS 細胞にはドナーの遺伝情報が含まれますから、それについて適切にドナーに説明し、遺伝情報がきちんと保護・管理されているかを検証しなければなりません。また、iPS 細胞や ES 細胞を用いて動物の体内で人間の臓器を作る研究や、iPS/ES 細胞由来の生殖細胞を用いた不妊症の研究はどこまで許容されるかなど、様々な課題について広く社会で議論し、倫理的・社会的な課題に対する法的な対応のあり方を考えていく必要があります。

上廣倫理研究部門の研究者は、アンケートやインタビューなどの調査・解析を通して社会意識を把握し、科学者や市民の対処策について提案していきます。また、新しい科学技術の医療応用について問題意識を高めるため、研究者や青少年・一般の方々を対象とする教育活動にも取り組みます。

●新研究部門の開設記念シンポジウムを開催

7月26日（金）には、京都大学百周年時計台記念館にて、新研究部門の開設を記念するシンポジウムを開催しました。今回のシンポジウムでは、上廣倫理研究部門の3名の研究者を学内外にご紹介すると共に、今後のiPS細胞研究に関連した倫理問題についてディスカッションが行われました。参加者は460名を数え、大盛況となりました。

最初の講演では山中伸弥教授・所長が登壇し、「iPS細胞研究の進展と生命倫理」と題してプレゼンテーションを行いました。これまでのiPS細胞研究の進展を紹介するとともに、新しい科学技術をどこまでどのように受け入れるのかは、科学者・倫理学者だけで決めるのではなく、社会全体で決めていくことと訴えました。

続く八代准教授は、「伝えることから始めるiPS細胞の時代」という演題で、メディア上に見られる表現等を素材にして「再生医療」や「クローン」といった用語の混乱や誤った情報の流通、便乗商法、幹細胞ツーリズム等の課題を指摘しました。また、倫理は「ブレーキ」と考えるのではなく「交通ルール」のように捉えるべきとの意見を述べました。

藤田准教授は「生命倫理・調査研究でわかること」という演題で、これまでの自身の研究業績と、データを基に議論を積み重ねることの重要性を指摘しました。例えば、論議となった日本移植学会倫理指針については、指針よりもかなり厳しい基準が適用されている現場が多かったことを示しながら、「事実」を把握することの重要性を説きました。

鈴木美香研究員は「人を対象に研究するとは？」という演題で、研究というものがそもそも必要とする科学的妥当性などの要素、研究のデザインの重要性、研究のリスク・利益のバランス、といったテーマについて発表しました。

後半はパネルディスカッションが行われ、最先端のiPS細胞研究を行っている研究者と、倫理研究者が入り混じって議論するとともに、会場からの疑問について真摯に回答していました。中には、「動物の体内で人間の臓器をつくる研究が行われているが、動物の体内で人間の脳をつくることに関して、どんな問題があるか知りたい」といった質問もあり、研究の目覚ましい進展に伴って発生する課題の深さを感じさせました。

最後には、戸口田淳也教授・副所長が挨拶のために壇上に立ち、倫理面を重視しながら今後の研究を



講演を行なう山中教授



パネルディスカッション

行っていく決意を表明し、シンポジウムは閉会となりました。

iPS細胞の研究と、医療への応用との間には、非常に長い道のりとハードルがあります。今回設置した倫理研究部門では、その道のりで必ず越えなければいけないハードルを明らかにしつつ、広く市民に開かれた活動を通じて、研究の進展や社会の変化を捉えつつ解決策を検討してまいります。

【iPS細胞研究基金へのご寄附方法】

ご寄附を検討されている方は、以下の連絡先にお電話やメールでご連絡ください。その際に、「神緑会の〇〇です」とご連絡いただければ幸いです。ご寄附を希望される方には、資料をお送りいたします。また、京都大学基金ウェブサイトからは、クレジットカード等でもご寄附いただけます。

ご寄附をくださった方には、後日アンケートをお送りしています。そのご返送の際には、「神緑会」ご所属の旨をご記載ください。

iPS細胞研究所 iPS細胞研究基金事務局

TEL：075-366-7152 FAX：075-366-7023

メール：ips-kikin@cira.kyoto-u.ac.jp

URL：http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/

■ iPS 細胞研究基金への寄附のお申し込み

CiRA では、研究者および研究支援者の安定的雇用や知的財産の取得・維持のために、寄附を募っております。ご寄附をいただく場合は、申込用紙やウェブフォームに「神緑会」とご記入くださいますようお願い申し上げます。申込方法については下記のサイトをご覧ください。よろしくようお願い申し上げます。神緑会として昨年3月より寄附を実施しており、多くの成果をあげています。引き続きよろしく申し上げます。

神緑会会長 前田 盛

<http://www.cira.kyoto-u.ac.jp/j/about/fund.html>

京都大学 iPS 細胞研究所の山中所長の呼びかけに
 応える支援について、昨年3月ニュースレターから
 神緑会として寄付活動に入りました。多くの研究
 費を持つ山中所長への寄付でしたから、その目的が
 十分に理解されなかったかもしれません。それで
 も、順調な寄付活動で「寄付者への感謝の集い」を
 神戸で開催などの話もありました。しかし、10月8
 日にノーベル賞受賞が決まって以降が問題である
 事が判明しました。国際広報室の渡邊文隆氏が
 チェックしてくれたところ、神緑会関係者からの寄

付は、119名で約3千3百万円です。特にノーベル
 賞受賞決定後は、22名、約500万円の増加でした。
 寄付総額は受賞決定前で4億円が12億円に達して
 おります。ノーベル賞受賞を喜んだ神緑会会員か
 らは、冷めた反応しかなかった事になります。日本
 の低調な寄付文化の問題に一石を投じる気構えは、
 全く理解されず途方に暮れる気持ちです。税の一
 部が寄付できるシステムは、NPO 法人への寄付な
 どで動きつつあります。引き続きのご協力とご意
 見をお寄せ下さい（神緑会）。

名簿編集委員会より

同窓会神緑会では、「会員名簿（2013年版）」を本
 年11月に発行する予定です。現在、名簿編集委員会
 では、名簿のスタイルや標記方法等の検討も行って
 おり、より充実した同窓会名簿の提供を目指してお
 ります。

ただ、卒年の若い層に名簿の空白が目立つようにな
 ってきており、委員会としても対応に苦慮してお
 ります。

この空白は、住所や勤務先等の届け出のない場合

であり、会員の希望により掲載していない場合とは
 異なります。本会ではご本人の希望により個人情報
 を掲載しない取扱も行っておりますので、せめて
 メールアドレスか勤務先だけでも掲載して頂けれ
 ばと願っております。

この会員名簿は、会員相互の親睦やネットワーク
 による患者さん紹介等のお役に立てればと願って
 おりますので、届け出のお済みでない方は、早急に
 届け出をお願いいたします。

あなたは貴重なチャンスを失っていませんか？

名簿の空白はチャンスの入口を閉ざしてしまいます。
 確かに煩わしさに遭遇するかも知れませんが、
 仲間を信じて空白を埋めてみませんか。

神緑会では、同窓会名簿を11月に発行します。あなたの連絡先を、せめてメールアドレス
 か勤務先だけでも名簿に載せましょう。

連絡先；神緑会事務局 Tel 078-361-0616 Fax 078-361-0617

メール sinryoku@med.kobe-u.ac.jp

同窓会 神緑会・名簿編集委員会

先生の良きパートナーでありたいー
私たちはそのために頑張ります。

ジェネリック医薬品

ワクチン・衛生材料

医療機器・調剤機器

カード事業（医師協カード）

生命保険・損害保険

医療経営コンサルティング

リネン・医療用寝具リース

医療用食品・食器・厨房機器

神戸医師協同組合

本部 神戸市中央区神若通3丁目2番15号
TEL 078(241)8995番 FAX 078(231)0910

ホームページアドレス <http://www.kobe-ishikyo.or.jp>

神戸事業所 TEL 078(241)8891番(代) FAX 078(242)8251
尼崎事業所 TEL 06(6438)2561番(代) FAX 06(6438)2339
明石事業所 TEL 078(936)3535番(代) FAX 078(936)3349
姫路事業所 TEL 079(239)5725番(代) FAX 079(239)2513
西神事業所 TEL 078(795)6612番(代) FAX 078(795)7084

印刷から、ポスティングまで

- パーソナルポスティングシステムによる
- 物流サービスで、
- 企業戦略をバックアップします。

ヘルパーシステムによるポスティングネットワークで
より迅速で確実な配布

メーリングとデリバリーを中心に
各種サービスを実施

小口から大口まで、
あらゆるケースに対応



株式会社 太閤通商

 **Taiko Mail Service**

〒662-0934 西宮市西宮浜2丁目18番地3
TEL: 0798-34-9331 FAX: 0798-34-4601
<http://www.taiko.ne.jp>
E-mail: info@taiko.ne.jp

神戸大学医学部医学科地域特別枠学生交流会 「地域わくわく会」 (5月実施)

味木 徹夫 (昭和63年卒)

地域医療に対するモチベーション維持・向上とタテ・ヨコの繋がりをより強くすることを目的として、地域特別枠入学生の交流会「地域わくわく会」を年2回催しています。

今年最初の「地域わくわく会」は昨年同様、『2年間で学んだこと』をテーマに、3回生5名が創意工夫でスライド発表をしました。入学したばかりの1回生に向けて、自己紹介も含み、自身が入学してから何を学び・感じたか、また学んだことを今後どう活かしていくか、内容の重厚さに学生のみならず、発表を聞いていた神緑会前田盛会長はじめ地域社会医学・健康科学講座教員とスタッフ、当日急遽参加した兵庫県庁職員の方々も興味深く聞き入っていました。発表前は内容やスライド作成について悩んでいた3回生から、終了後には「入学してから学んだことを振り返ることが出来た。それに、これからの目標が少しずつ見えてきた」というコメントがあり、とても頼もしく感じました。

今回は地域医療の先駆者である自治医科大学出身の兵庫県養成医師をお招きしての座談会を、9月開催予定です。

平成22年度より設けられた推薦入試制度「地域特別枠」は、今年度10名入学し1～4回生で計26名となりました。学年関係なく、困ったときはお互いをサポートできる関係を築いてほしいという願いから、今後も活動を続けていきたい所存です。また兵庫県奨学寄附金受給者が6回生1名、5回生1名おり、来年度神戸大学としては初めての兵庫県養成医師が誕生します。神戸大学生のみならず、自治医科大学・兵庫県立大学の兵庫県養成医学生との繋がりも今後深めるべく、セミナーなど開催・企画しています。

以降のページに今年発表を行った3回生のレポートを掲載しています。御一読頂き、地域医療教育について見識を深めて頂ければ幸いです。募集対象3の2の活動です(6頁参照)。

◇ 発表レポート

3回生 檜木 孝次

5月10日の地域わくわく会では、3回生が「この2年間で学んだこと」というテーマで地域医療についてのプレゼンを行いました。僕は本番3日前ぐらいから緊張しっぱなしで、本番当日も図書館の地下で1時間前からプレゼンの練習をして臨んだのですが、最初に話始めると言いたいことがずっと口から出てきて、無事成功させることができました。発表後に先生方からプレゼンのアドバイスもいただけたし、新1年生やあまり話せてなかった2年生とも少し話すことができとても有意義な一日になりました。ただ、立食会の時に先生の話をお聴いてると、紙皿と割り箸をもらいそびれて、せっかくのご飯があまり食べられなかったのが心残りな



のですが…。

今回のプレゼンの発表準備から発表までを通して思ったことは、もう少し積極的に地域枠の活動に参加して、地域医療についての知識や考えを深めなければならないということです。プレゼンでも話したのですが、今回「この2年間で学んだこと」を



話すに当たって、自分自身のこの2年間を振り返ってみたのですが、恥ずかしいことに、あまり多くはできませんでした。それにはやはりこの2年間、地域枠の活動に対して能動的ではなく、受動的な気持ちであったことが一つの大きな原因なのだと思います。やはり勉強でも部活でも習い事でも何でも、自分から興味を持って取り組むのとそうでないのでは、身に付く程度も大きく変わってきます。もっと自分が地域枠の学生であるという自覚を持って、進んで地域枠の活動に参加したり、地域医療について気になることは自分で調べたりしていくことが必要だなと思いました。また、せっかく地域枠の教室というのがあるのだから、もっと足を運んで活用するというのも一つの手だなと思いました。受け身でいるのではなく、自分から進んで行動しないときちんと学ぶことはできないのだなと感じました。この2年間はそのような感じでなんとなく過ごしてしまったのですが、後輩もどんどん増えてきているし、この3回生からは自分からたくさんさんのことを学んでいきたいなと思いました。

また、他の3回生のプレゼンを聴いてみんなそれぞれ色々なことをこの二年間で学んだのだなと思いました。自分のプレゼンは地域医療のことにあまり触れていなかったのが、他のみんなに比べると内容のなさに恥ずかしかったです…。ただ、やっぱり5人ともみんな違ってそれぞれの考えや感じ方があって、これからもこの5人と一緒に同じ地域枠で学んでいくのだなと思うとすごく楽しみで色々な刺激がもらえるのだらうなと思いました。

前日までは緊張して嫌だなと思っていたプレゼンも終わってみるとほんとうにいい経験になったし、とても充実した一日になりました。来年は今の2回生が同じように発表するんだと思うと、人数も増えたしどんな発表をしてくれるのだらうかと

今からわくわくしています。来年のこの地域わくわく会が今から楽しみです。

◇ スライド発表 地方における医療機関の不足

3回生 酒井弘人

地方における医療の問題点は、医師不足、医療機関不足、超高齢社会による社会構造の変化、無過失補償制度、医療費増大などがある。その中から、今回の発表では、医療機関の不足について述べる。

患者が医療機関を選ぶ最たる理由は、通院時間の短さである^{*1}。しかし、地方において、医療機関が少なく、そのため遠距離の病院に行かざるを得ない方が多い^{*1}。特に、面積が広く、人口が少ない但馬では、神戸市と比べて、単位面積当たりの医師数が1/50である。

単純に但馬地方の医師数を増やせば問題が解決されるかと言われると、そうではない。兵庫県は、面積当たりの医師数が但馬では最低であるが、人口当たりの医師数で考えてみると西播磨が最低であり^{*2}、医師を増やすのであれば西播磨からが妥当であると思われる。兵庫県自体の医師数を増やし、割り当数を増加することは解決につながるが、お金がかかる。マンパワーの不均衡の是正、限りある医療資源をいかに効率よく活用するかが、大きなポイントとなってくる。人口当たりの医師不足は、医師の絶対数を増やすか、医師の作業効率を更に上げるかしか解決策がない。面積当たりの医師不足は、如何に過疎地域へ医師を送り込むかが重要である。往診、訪問診療、在宅診療を増やせば過疎地域へ赴くことはできるが、診療時間の減少、医療行為の質の低下が起こりうる。



そこで、様々な医療機器をバスなどにのせて走らせる移動型の診療所はどうであろうか。イメージとしては検診車である。道があればどこにでも行くことは可能であり、また、複数の診療所をカバーすることも可能である。新しく診療所を開設する必要や、そもそも診療所を維持する必要さえなくなるかもしれない。日経メディカル2013.3月号に掲載されていたが、広島庄原赤十字病院では数年前から移動型の診療所を始めている。固定の診療所時代では、患者数が減る一方で、患者からのニーズがなくなったと思うこともあったらしいが、移動診療所をはじめて一変、患者数は増えていった。診療施設が徒歩圏内となったことで、車の運転が困難となった高齢者も受診するようになったからである。また、アメリカでは移動型診療所はすでに広く活用されている。

もちろん問題点は大いにあるが、解決策の一つとして一考の価値はある。

- ※1 平成8年受療行動調査「病院への通院時間(全国)」、平成23年受療行動調査「患者さんが病院を選ぶ理由」より
- ※2 <http://web.pref.hyogo.lg.jp/hw02/documents/000097076.pdf> より

◇ 地域粹レポート

3回生 戸田 誠也

1. 発表内容

但馬の病院実習での経験について

● 村岡病院での実習経験

・在宅ケア

普通の病院実習ではおそらく経験することができなかったであろう訪問診療を見学させていただいた。

・地域住民との信頼感

そのあたりの道路を歩いているだけで、その地域の住民の方から声をかけられ、最近の状態や野菜の出来などの話をしてくれるほど信頼されているのを感じた。

・石田先生の熱血講義

村岡という地は触診や地域住民との信頼関係の構築など地域医療の根本という意味での究極の医療の場であるという言葉が印象であった。



● 八鹿病院での実習経験

・内装・外観がキレイである

清潔感は現場スタッフや入院・外来患者さんにとって単純なようですがごく大事なファクターであることを汚いトイレにまた行きたいか?という例を挙げて説明。プレゼン当日に、最近オープンした神戸 umie は僕自身 umie のお店に大した用はないが、とてもきれいなのでまた行きたくなった、という例も使いたかったが話が長くなるので割愛した。

・音楽療法

日頃ベッドに寝たきり、病院内での生活しか送られていないとなると日頃の生活に楽しみや刺激を感じることがない。そこで楽しく愉快的音楽を聴いたり、一緒に歌ったり、手拍子したりとその日常で何も刺激的なことがないというストレスを和らげ精神的な健康を向上させるものでと説明。また音楽療法にはコストがあまりかからず患者さんの身体にも負荷を与えないことも魅力である。

・医療ソーシャルワーカー

会社で言う総務課のようなものでいわゆる何でも屋、相談窓口である。医療ソーシャルワーカーに資格はない。大病を患ったときにどうすればいいのか、退院後の療養についてはどうしたらいいのか、社会復帰、医療費などの問題について相談支援を行っている。必要ならば専門医や関係機関につないでくれる。

医療ソーシャルワーカーには問題点がある。

一つは人材不足。これは人件費の補償がないためと言われている。

二つ目は養成環境が整っていないため、医療ソーシャルワーカー一人一人の力量にかなりばらつきがあること。

三つ目は知名度が低いこと。医療ソーシャルワーカーについてプレゼンしたものの八鹿病院ではあまりくわしい話が聞けず、インターネットで調べたもののあまり情報が出てこなかったため、質問されたときに大した返答ができなかったことが反省点。

●病院実習を通して

座学で学べるような専門的な知識ではなく、実際の人と人との関係、医師の患者への接し方や病院の努力・工夫など実際の治療などとは少し離れた側面を見ることができてすごくいい経験になった。

2. 今後の抱負

2年間病院実習に行かせていただいたわけですが、今年は但馬ではなく姫路の方の病院実習に行かせていただこうかなと思っております。もっと他の地域の病院も見ることによって地域差を見ることができのかなと考えてます。

地域医療とはそれほど関係ないかもしれませんが、学校の勉強のほうも座学の面ではもう折り返し地点ですので、夏休みくらいから本腰を入れて勉強の方も進めていこうかなと思っております。

部活の方も幹部学年ですので、卓球、軽音ともに精進していこうと思います。

◇ 2年間で学んだこと

3回生 藤川 萌恵美

わたしは2年間、この地域枠に属していく中で学んだことはたくさんあります。その中でも一番の勉強の機会となっているのは、やはり、毎年開催される夏期セミナーです。過去二回参加した中で学んだことは、在り来たりではありますが、「過疎地で不足しているのは医師だけではない」ということと、「医師だけでは医療は成り立たない」という二つのことに集約できます。

一年目は豊岡病院からの訪問看護に同行させて頂きました。そのなかで看護師さんが頻繁に家庭を訪問し、多くの業務をされていること、その看護師さんの業務の重要性、また看護師さんの地域偏在化による人手不足による負担を感じました。また訪問看護や診療だけではなく、薬剤師さんや調理師

さんも家庭を訪問されるということも驚きました。

二年目では公立豊岡病院日高医療センターに訪れ、運動療法を取り入れて生活習慣病へアプローチをしているところを見学させていただきました。理学療法士の方が中心となって、地域の特色をつかんだ予防医療を実施されていることにチーム医療としての重要性を感じると共に、地域医療の真髄を垣間見ることができました。

このような実習の中で、地域医療を成り立たせていくためには看護師さんや調理師さん、薬剤師さんや理学療法士などの医療関係者すべての職種の方の存在が不可欠であるということを感じました。

もとより、チーム医療という言葉を知っていましたが、実際に現場をみることにより、また違った視点かつより深い意味で他職種との協力の重要性を感じることができました。

また医師不足についてはよく耳にしますが、他の医療従事者の地域偏在も重要な問題であるということを感じました。発表後に医療従事者の地域偏在とともに、過疎地における医療従事者の高齢化についても問題になっているというご指摘を先生に頂き、その点もこれからの地域医療を行うにあたって避けては通れない問題であると考えさせられました。

地域枠という形は、神戸大学であれば医師養成でしか設けていませんが、保健学科や神戸薬科大学などの将来医療従事者になる方々にも地域医療の重要性を伝え、学生のうちから地域医療を通しての交流が持つ機会を設けることを提案したいとおもいます。

またこれから続々と入学してくる後輩たちや、医学科をめざしてがんばっている高校生の皆様にも





少しでも地域医療、過疎地における医療というものに目を向けてもらう機会を増やしていくと共に、少しでも多くの人々が、自分自身も将来そのような医療に貢献していきたいとおもってもらえるようにこれからの学生生活の中で活動していけたらと思っています。

◇ 発表レポート

3回生 毛利 有 沙

新入生に向けたお話を、ということだったので気になっている方も多であろう卒後の研修先について、調べた範囲でお話させていただきました。

以下概略

卒後最初の2年は初期研修といい、研修医としていくつかの診療科をまわる。今のところ初期研修先は希望を聞いた上で県が決めている。その後3年は前期派遣、その後2年は大学病院などの高度医療機関で学び、専門性を高める。その後3年間の後期派遣があり、義務年限は終了となる。今現在研修医1年目、2年目の先生が派遣されている病院について少し紹介する。

- **豊岡病院**…431床の病床を持つ、但馬一帯の拠点病院。県立西宮病院の病床数が400床なのでそれと比べてもかなり大きい病院であることがわかる。ドクターヘリやドクターカーも導入しており、但馬だけでなく丹波や鳥取も網羅している。
- **八鹿病院**…但馬で豊岡病院に次ぐ大きな病院。在宅医療や難病患者のケアも行っている。私は夏期セミナーでこの八鹿病院と豊岡病院を訪れた。
- **製鉄記念広畑病院**…姫路市の拠点病院である。

この3月にリニューアルし救急救命センターも出来た。ドクターヘリの準基地にもなっている。

● **赤穂市民病院**…この病院には私自身1年生の夏の初期臨床体験実習で行き、とてもきれいな病院で設備も充実していると感じた。

いくつか病院を紹介した上で私が主張したいのは、一般的なイメージとは違い地域の病院は決して設備や規模の面で劣ってはならず、勉強にならないなどということは決してないということ。もちろん都会よりも劣っている部分もないとは言えない。けれど私は「地域医療に足りないもの」を探すのではなく「地域医療には一般の医療 + a で何が必要なのか」を考えることが大切だと思う。例えば私が今までに大切だと感じたのは「地域を知る」ということである。地域のことを知っていれば患者さんとコミュニケーションが取りやすいのはもちろん、この地域は農業をしている人が多いから腰に痛みを抱えている人が多いなどの問題が分かればそれに合った治療法や予防法を考えることもできる、とおっしゃる先生もいらっしゃった。他にも + a で必要なものは何か、これからも講義や実習を通して考えていきたいと思う。

今まで地域医療について一般の人や医学部の地域枠の学生と話したときに、多くの人々が「地域は遅れている」という偏見を持っていて、その度に違和感を覚えていました。実際に現場にいて地域医療の実情を少なからず知ることが出来ているのはうれしいことだと発表を通じて、改めて実感できました。私が自分の目で見て学んできたことをまわりの人たちにも伝えて、地域に対する認識を少しずつでも変えていけたらなと思います。



KYOWA KIRIN



G-CSF製剤 処方せん医薬品*
日本薬局方 フィルグラスチム(遺伝子組換え)注射液

薬価基準収載

グラン[®]キリン
75・150・M300



※注意 - 医師等の処方せんにより使用すること

効能又は効果、用法及び用量、用法及び用量に関連する使用上の注意、禁忌を含む使用上の注意等は製品添付文書をご覧ください。

製造販売元

[資料請求先]

協和発酵キリン株式会社

東京都千代田区大手町一丁目6番1号 〒100-8185

www.kksmile.com

2012年12月作成 登録商標



神戸にて
創業65年の実績

神戸の印刷は、
KOYUに
お任せ下さい!!

でも、
印刷だけじゃない!

交友印刷株式会社

〒650-0047 神戸市中央区港島南町5丁目 4-5

TEL 078-303-0088 (代)

FAX 078-303-1320

<http://www.koyu-p.com>

はりま支店 / 加古川

友月書房 交友プランニングセンター / 神戸三宮

交友印刷

検索



Webコンテンツで集客・契約率をup!

ホームページの制作

Webサイトの構築・管理

モバイルサイトのホームページも制作

- お客様への認知度アップを図りたい…
- 採用情報でよい人材を確保したい…
- タイムリーに企業情報を発信したい…
- 忙しくて頻りに更新する時間がない…
- etc

新規顧客開拓ツール

お客様を逃がさずゲット!

顧客開拓

Webサイトに来たお客様を逃がさずゲット!

- 1 関心度の高い顧客をリストアップ
- 2 事前に起業の興味を把握して、営業活動
- 3 企業ごとにアクセス解析が可能

既存顧客マーケティングツール

お客様を逃がさずゲット!

モバイルを使った集客・会員管理まで…
メール会員になってもらい、定期的にお知らせやお得な情報を店側から発信する積極的マーケティングのお手伝い。

360°パノラマムービー

ホームページ上で施設内を擬似ツアー

いろんな用途に利用でき、
無限の可能性を持つバーチャルツール
その場の臨場感をリアルに表現。



上下左右 360°回転
可能なパノラマ
ムービーの撮影・
データ作成を行います。



会社案内の素.com

会社案内のNet通販

詳しくは、Webへ

会社案内の素

50部 37,000円より

(お手軽プランの場合)

ビジネス
チャンスを
逃さない!!



信頼感up!
「会社の顔」となるツールです!

神戸神緑会総会開催のお知らせ

神戸神緑会会長 中野康治 (52年卒)

神戸市9区支部の連合体である『神戸神緑会』の総会が以下の要領で開催されます。
神緑会出身の2人目の衆議院議員：日本維新の会の伊東信久氏 (平成7年卒) と神戸大学附属病院長の杉村和朗氏 (52年卒) の講演を予定していますので、会員の皆様奮って御参加下さい。

記

日時：平成25年9月14日 (土) 16:00~

場所：生田神社会館

(神戸市中央区下山手通1-2-1 ☎078-391-8765)

総会次第：

16:00 総会

16:30 講演

①：伊東信久氏「日本の医療における神戸大学の役割」

②：杉村和朗氏「最先端のがん医療：神戸大学の取り組み」

18:00 懇親会

以上



編集後記

- 総会報告がメインとの認識からスタートしたが、豊富な内容となりました。本年度からスタートした広告掲載の影響もありますが少ないよりは良いでしょう。附属病院の外来担当表を初めて紹介しますが、打ち合わせが悪く小文字となった点は次回への反省とします。
- 表紙の組写真の新作は、研究棟Dの改修・新築の内容は少し古いですが、隣の統合新中学 (旧楠中学) の建築修了により、管理棟と厚生棟の間から見える附属病院撮影が可能となりました。花壇は、附属病院ボランティアグループの力作です。猛暑にも耐えています。学内に緑と花を、神緑会館内のライトコートにも！
- 学術誌、ニュースレター、ニコニコ通信 (卒業後15年までの学年にのみ) を一気に印刷しました。暑い夏となり、初秋でもある時期に受け取られた会員の皆様方の反応をお寄せ下さい。
- 編集委員会の組織化を図ります。学術誌の編集後記にも書いてますように、ニュースレター発行の成否が不明で財政の厳しい中でのニュースレター毎年4回の発行でした。第5巻となりましたので、今後は内容の吟味も含めて新編集委員会で取り組みます。広報担当の副会長、中野康治が委員長となります。

編集委員：

梶田明義	昭和34年卒
久野克也	昭和48年卒
◎山崎峰夫	昭和56年卒
三浦靖史	平成元年卒
尾藤利憲	平成3年卒
吉田 優	平成4年卒
小林和幸	平成9年卒

◎は編集委員長

●編集委員募集中●